

世界照準から、
世界標準へ。



In Step with the Future

NICHIRIN

2025年(2024年12月期)

会社説明会

(2025年2月26日)

株式会社 **ニチリン**

[証券コード 5184]

目次

1. 当社の概要
2. 2024年12月期(令和6年12月期) 決算
3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
5. トピックス

1. 当社の概要

株式会社ニチリン

社名	株式会社ニチリン
創立	1914年(大正3年)5月
資本金	21億5,800万円
従業員数	<単独>359名 <連結>2,379名
本社所在地	神戸市中央区江戸町98番地1
事業所	姫路工場(本社機能), 東京支社, 浜松営業所
事業内容	自動車用ホース, 住宅関連ホース
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	5184
単元株式数	100株
ホームページ	https://www.nichirin.co.jp/



(2024年12月31日現在)

1. 当社の概要 ニチリングループ拠点（国内・海外）

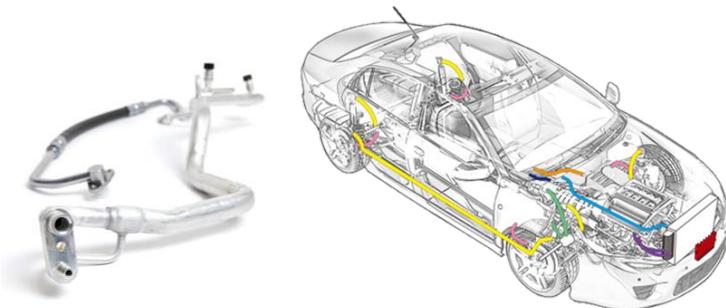


自動車用(自動車用・2輪車用)・住宅関連ホース・同部品等の製造販売

自動車用

搭載システムの高機能化にも柔軟に対応する製品づくり

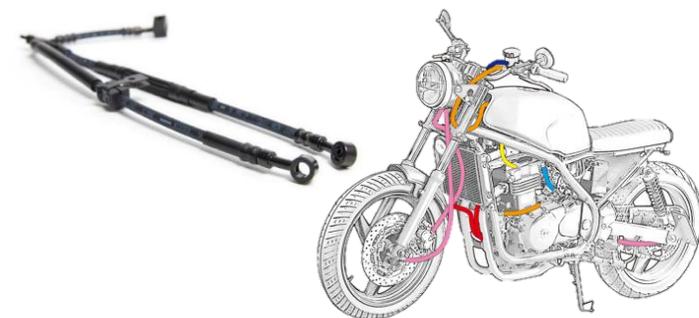
- ・制動系ホース
ブレーキホース
- ・熱マネジメントシステム用配管
エアコンホース・エアコン配管
内部熱交換機(IHX*)
- ・その他油圧空圧系ホース
パワーステアリングホース等



2輪車用

ブレーキホースは日本国内で100%に近いシェアを確保

- ・制動系ホース
ブレーキホース(自転車用を含む)
- ・その他油圧空圧系ホース
フューエルホース等



住宅関連ホース

樹脂・ゴムを用いた設計度の高いフレキシブルな配管
(トイレ・バス・キッチンなどの水栓/給水用ホース)

- ・給水給湯用配管
混合水栓用ホース(水道用ホース)
トイレ用ホース等



産業用機械 検査・監視録画機器

- ・レーザーマーカ関連
- ・検査・監視録画機器



2. 2024年12月期(令和6年12月期) 決算

2. 2024年12月期(令和6年12月期) 決算

連結売上高・連結当期純利益は過去最高を更新

単位：百万円

項目	2023年 実績	2024年 実績	前年比
売上高	70,631	71,356	101.0%
営業利益	9,620	9,184	95.5%
(営業利益率)	(13.62%)	(12.87%)	
経常利益	10,548	10,382	98.4%
(経常利益率)	(14.93%)	(14.55%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,915	6,171	104.3%
(当期純利益率)	(8.37%)	(8.65%)	



過去最高
売上高



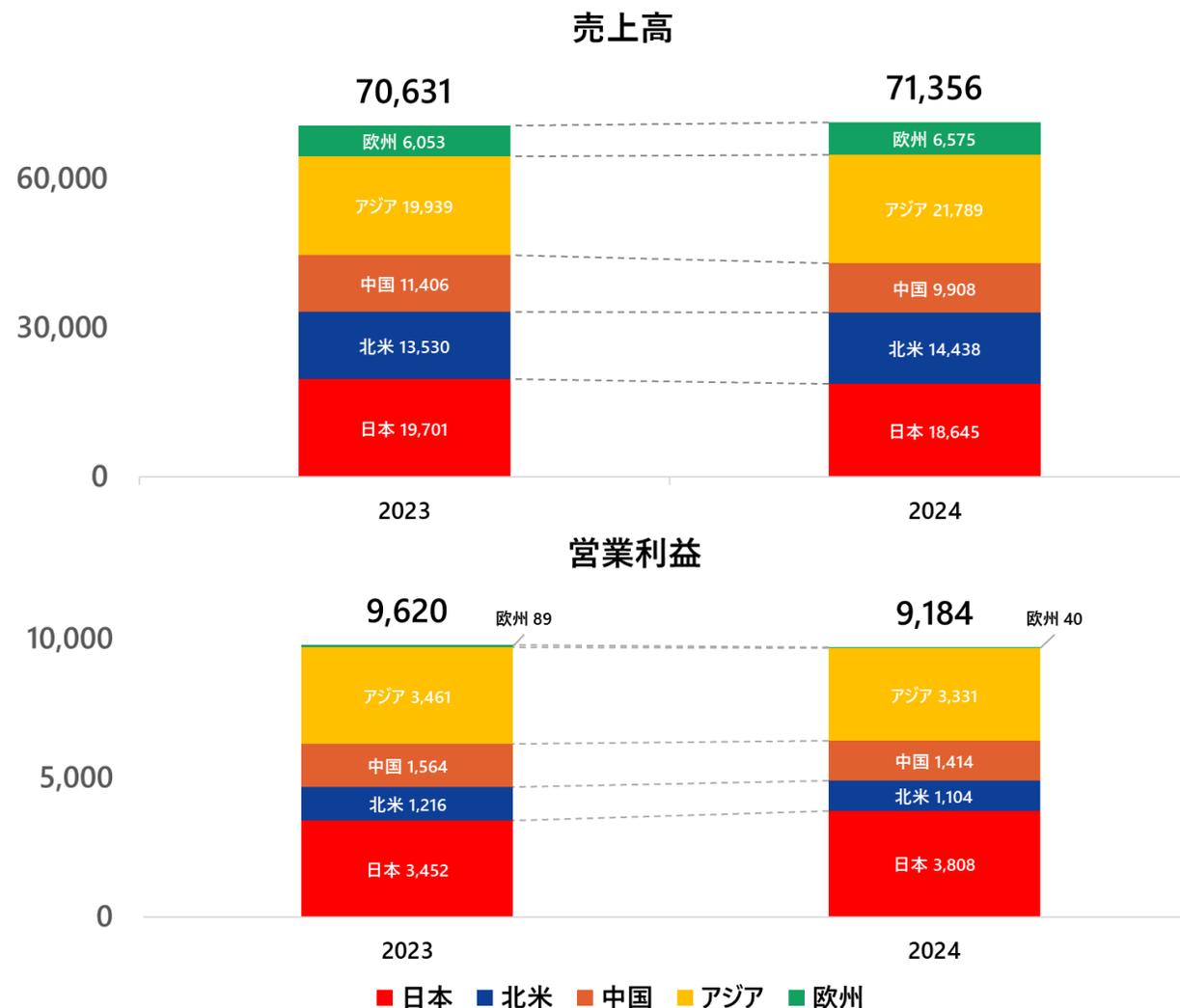
過去最高
当期純利益

※ USD為替レートは、2023年実績 140.67 (円/USD) → 2024年実績 151.68 (円/USD)

2. 2024年12月期(令和6年12月期) 決算

セグメント別

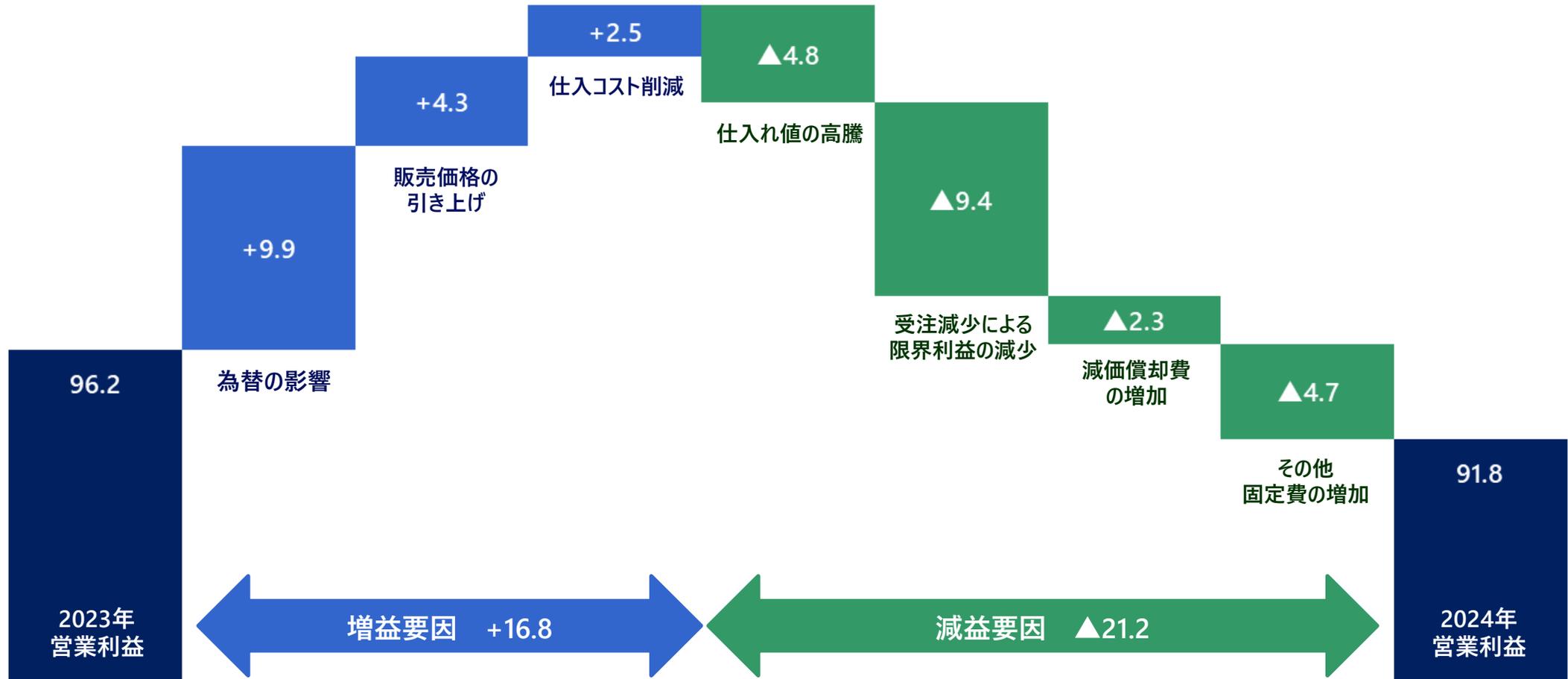
		2023 実績	2024 実績	前年比
全社	売上高	70,631	71,356	101.0%
	営業利益	9,620	9,184	95.5%
日本	売上高	35,159	35,771	101.7%
	営業利益	3,452	3,808	110.3%
北米	売上高	13,551	14,445	106.6%
	営業利益	1,216	1,104	90.8%
中国	売上高	12,636	11,280	89.3%
	営業利益	1,564	1,414	90.4%
アジア	売上高	22,892	24,795	108.3%
	営業利益	3,461	3,331	96.2%
欧州	売上高	6,318	6,841	108.3%
	営業利益	89	40	44.9%



2. 2024年12月期(令和6年12月期) 決算

営業利益増減要因

単位：億円



3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

増収・営業増益ながら、経常利益・当期純利益は減少

単位：百万円

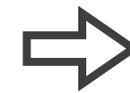
項目	2024年 実績	2025年 計画	前年比
売上高	71,356	72,800	102.0%
営業利益	9,184	9,400	102.4%
(営業利益率)	(12.87%)	(12.91%)	
経常利益	10,382	9,600	92.5%
(経常利益率)	(14.55%)	(13.19%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,171	5,800	94.0%
(当期純利益率)	(8.65%)	(7.97%)	



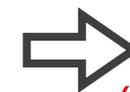
増収



増益



減益
(為替差益減少)



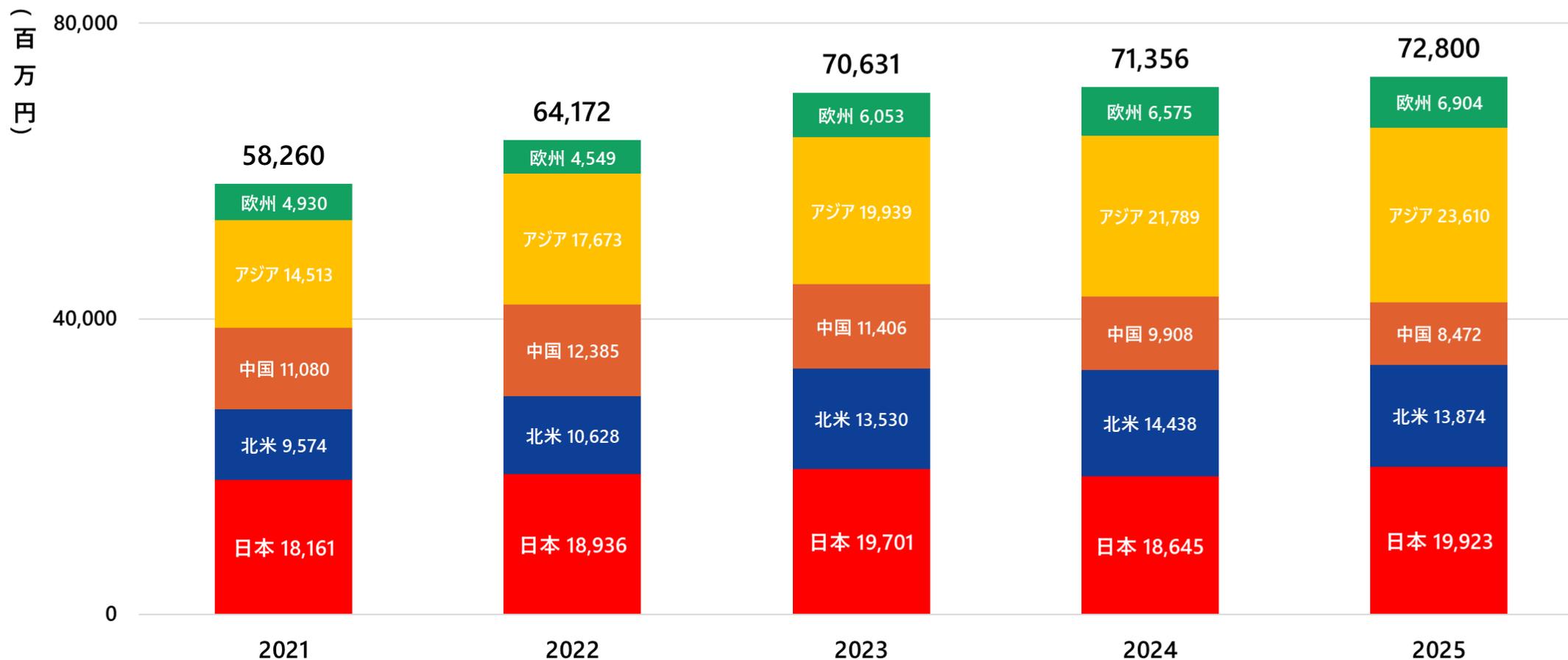
減益
(子会社清算益減少)

※ USD為替レートは、2024年実績151.68 (円/USD) → 2025年計画150 (円/USD)

3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

主要日系自動車メーカーの中国市場における販売不振は見込まれるものの、アジア市場における販売回復、インド2輪市場の拡大、欧州における拡販の影響による売上増加を計画

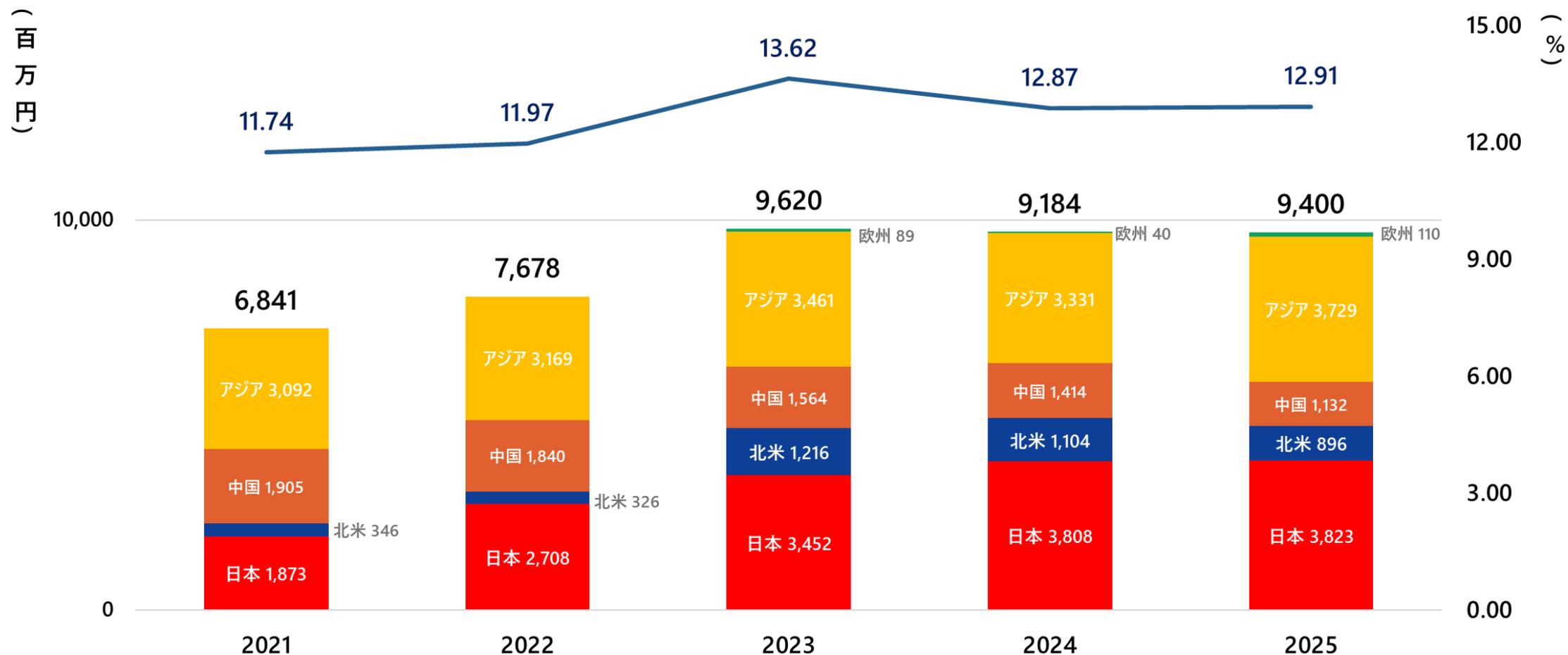
売上高



3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

顧客への適切な値上げ交渉、米国の関税強化に対する生産体制・サプライチェーンの見直しにより増益を計画

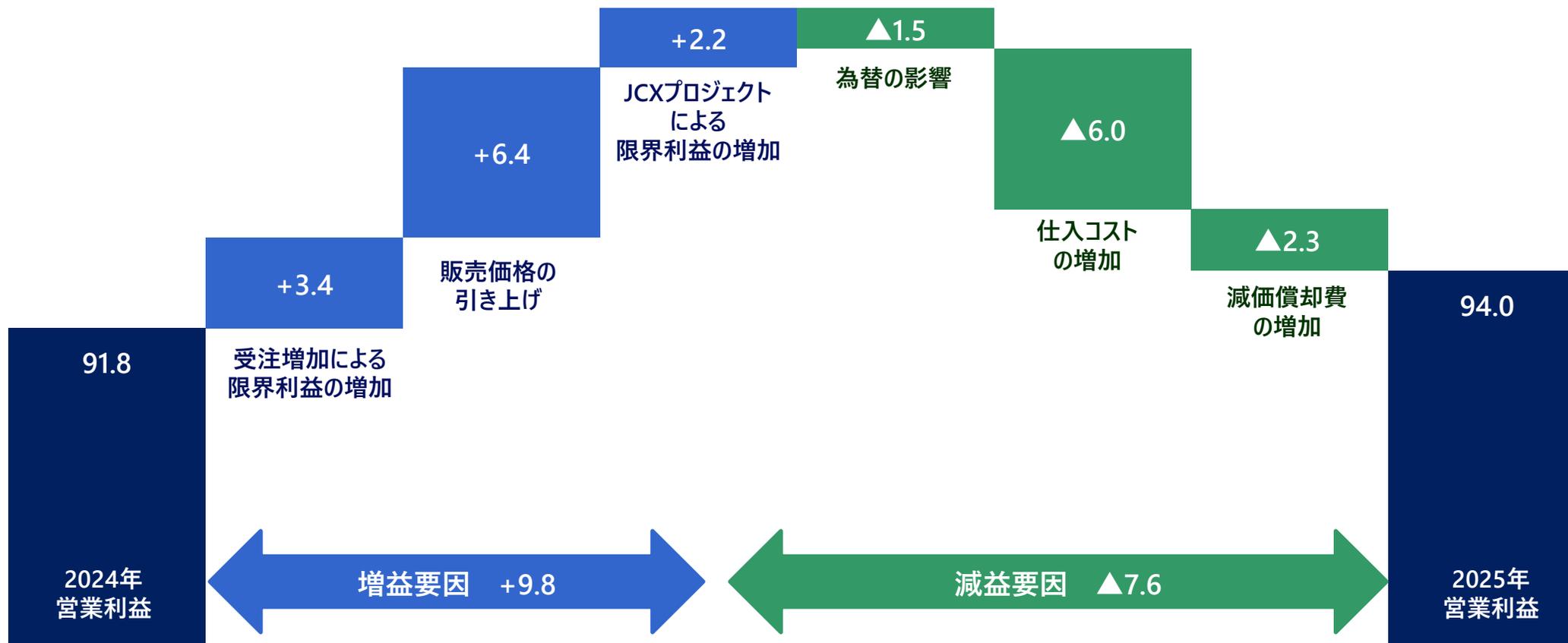
営業利益



3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

単位：億円

営業利益増減要因

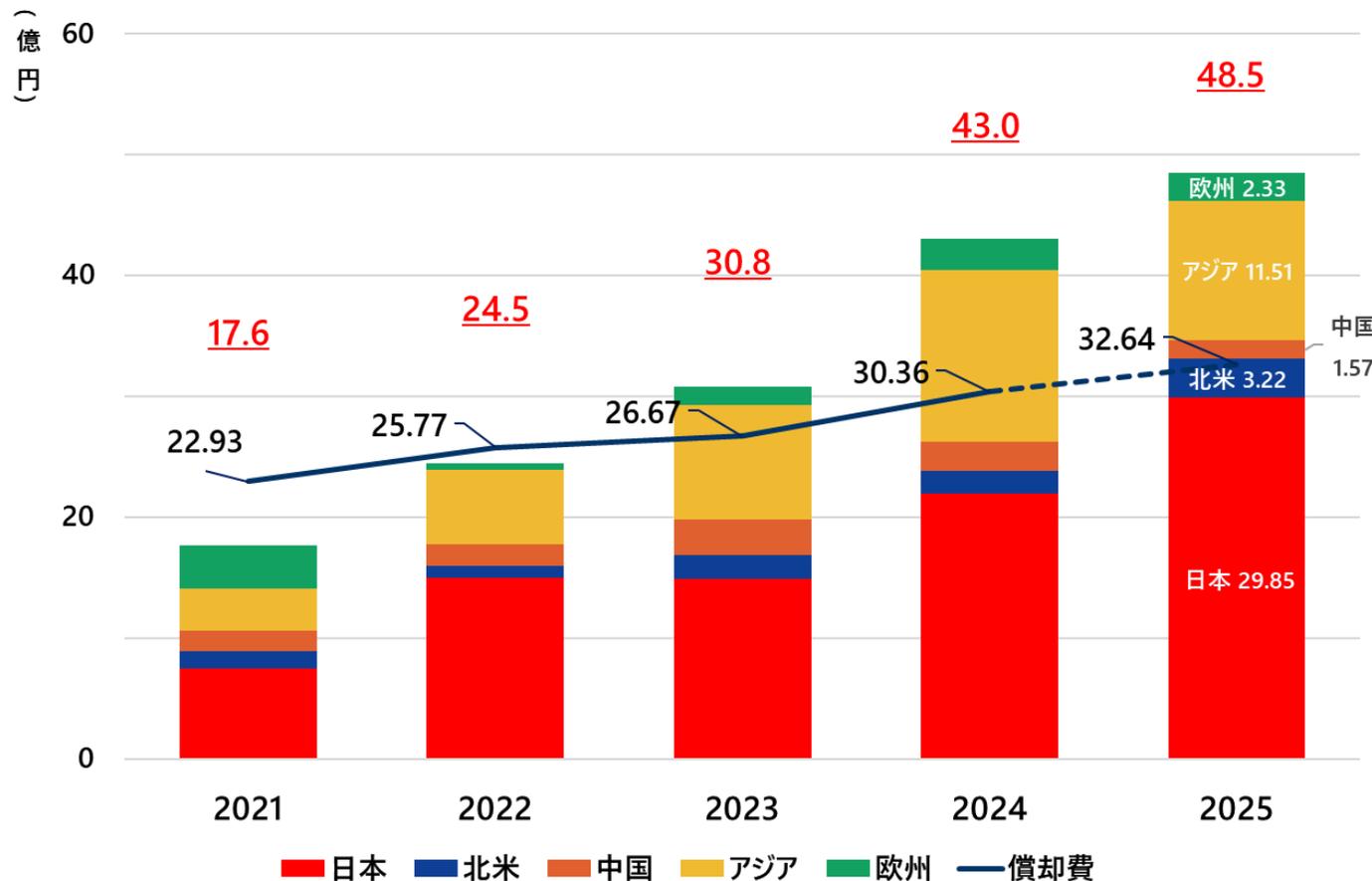


※ JCXプロジェクト・・・日米中の生産移管を目的としたプロジェクトのこと
(詳細は後のスライドにて説明)

3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

2024年～2025年の2年間の設備投資計画 90億円に対し、総額 91.4億円を見込む。

設備投資計画



主な設備投資内容

国内

- 姫路工場（中期的な構想） 10.5億円
- 将来の飛躍に向けたイノベーション投資 4.4億円
- 日米中での生産移管関連投資 2.5億円

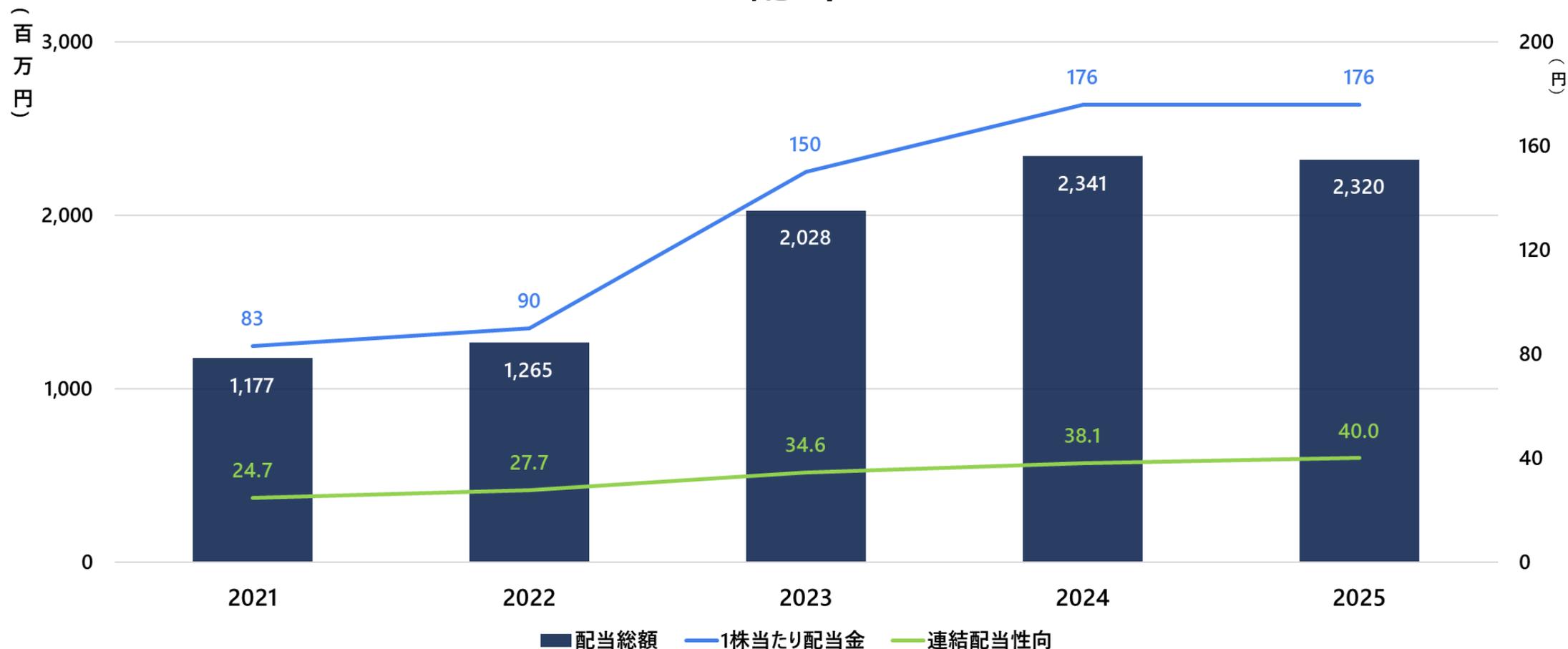
アジア

- AC配管内製化設備（インドネシア） 3.9億円
- ホース製造関連設備（ベトナム） 1.8億円

3. 2025年12月期(令和7年12月期) 業績予想

2024年度の配当は、中間75円 期末101円 (普通配当96円+創立110周年記念配当5円) の年間配当金176円
2025年度は連結配当性向40%を目指し、年間配当金176円を予定

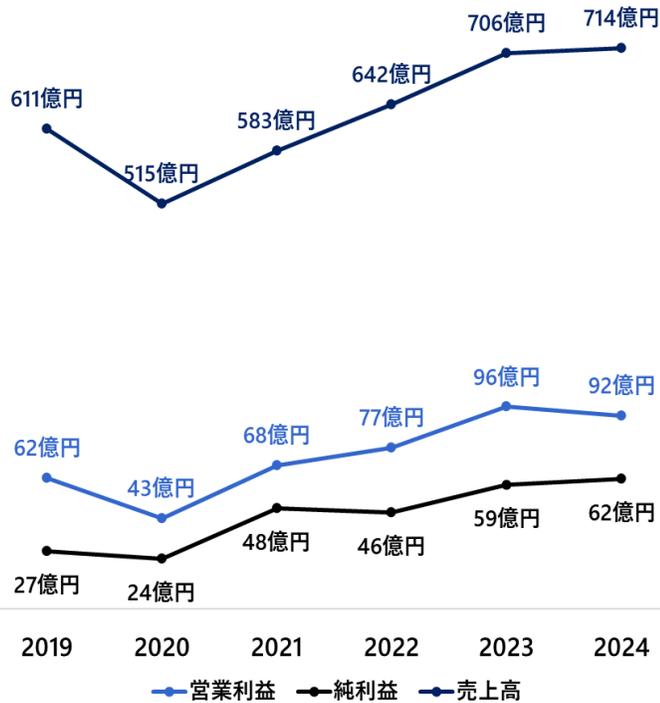
配当



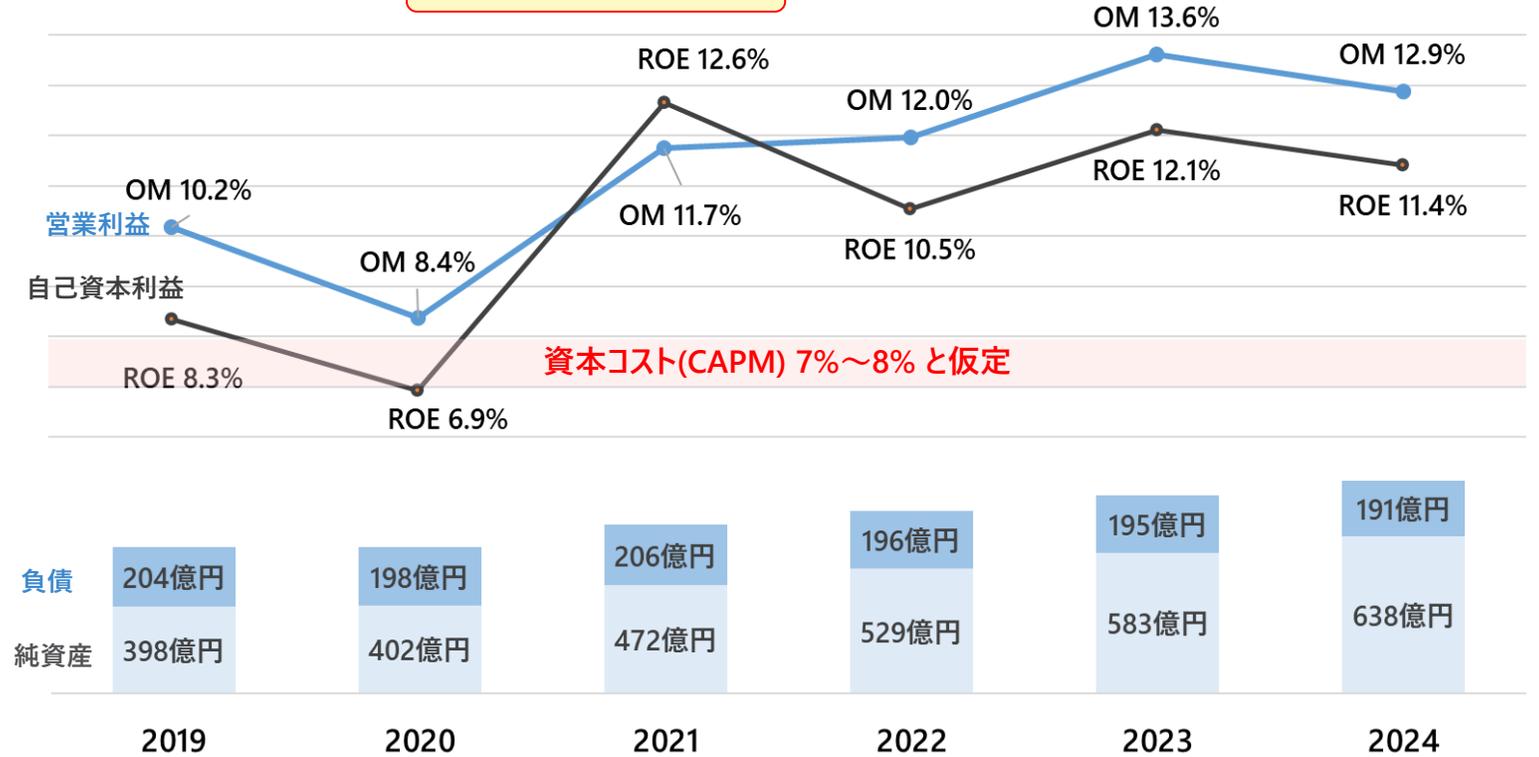
4. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

業績の推移(売上・利益)



ROE (自己資本利益率) 目標値：ROE=10.0%以上



業績の推移について

- 円安メリットの享受 (生産拠点の移管・商流変更)
- インフレ進行下でのコスト増が、前年比での営業利益が減少した要因
- 売上・当期利益では、増収増益で過去最高を更新

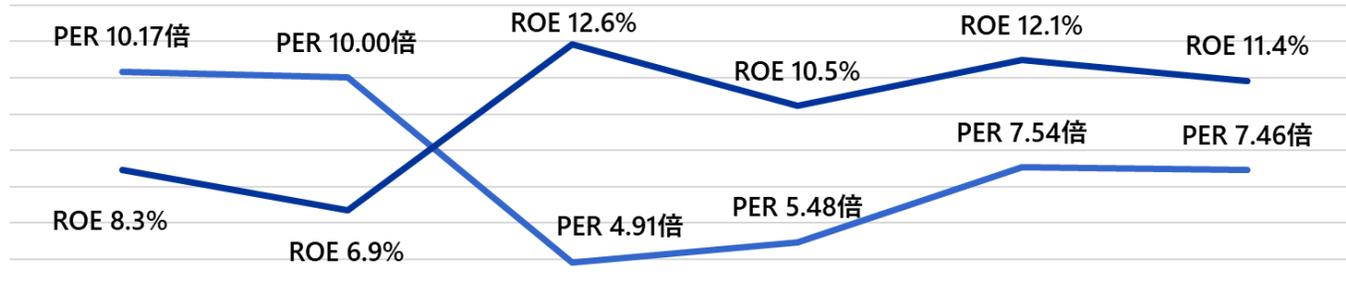
ROEの評価

- 前年比では、コスト増により利益性が悪化 (営業利益率の悪化)
- 一方で、事業戦略による生産拠点の機動的な変更により売上・当期利益・バランスシートの評価は増加
- 資本コスト(想定7%~8%)を上回り、目標値の10%以上を維持。ただし、引き続き、利益改善活動の継続と効率的な資本運用を実現するための取組は必要

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

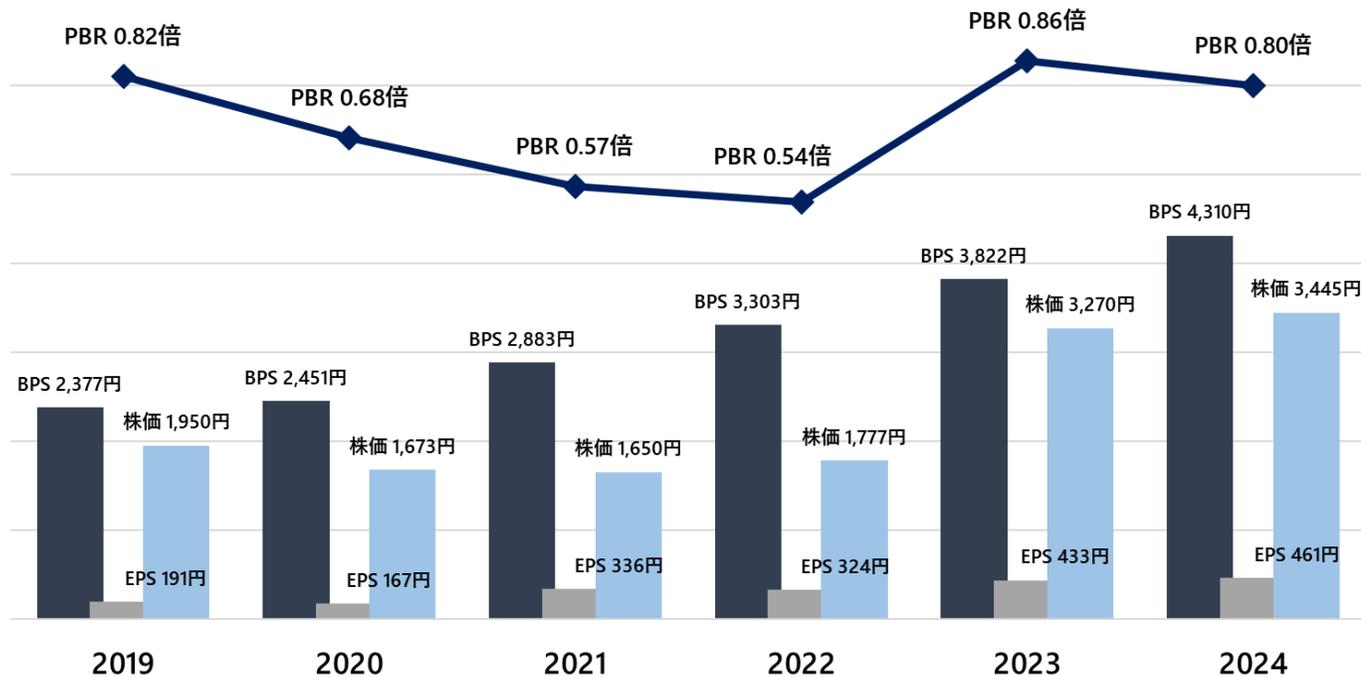
ROE(自己資本利益率)とPER(株価収益率)

目標値：ROE=10%以上



PBR(株価純資産倍率) = 株価 ÷ BPS(1株あたり純資産額)

目標値：PBR=1.0倍



ROEの評価 (詳細は前スライド参照)

ROEは、資本コスト(想定7%~8%)を上回り、目標値の10%以上を維持、目標達成

PERの評価

PERは、低位で推移、投資家による評価は利益の継続性や事業の成長性に対する期待が低い

PBRの評価 = ROE (%) × PER (倍)

ROEは目標値を上回る中、期初に開示した資本コストや株価を意識した経営の方針の実行(増配・自己株式の取得等の資本政策)により、2024年度では株価は、一時最高値4,010円/株を記録したものの、PERは低位で推移、年度末でPBR = 1倍には届かなかった

改善に向けた方針の着実な実行に加え、2026年度から開始する中期経営計画を策定・開示することで、投資家の皆様の理解を深めてまいります

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

改善に向けた具体的な取り組み 収益性の向上

EV化に適応した製品開発と拡販

EV用エアコン配管、曲管ゴムホース
ヒートポンプシステム用配管、樹脂のアルミ接合技術

EVメーカーへの 販売拡販	2024年		2025年 計画
	販売計画	実績	
	16億円	17.75億円 (投資達成率111%)	18億円

グループ連携による事業領域の拡大

グローバルでの調達・生産・販売体制の構築

欧米のプレミアム 2輪メーカーへの 納入開始 (ハーレーダビッドソン・ BMW)	2024年		2025年 計画
	販売計画	実績	
	12億円	8.7億円 (投資達成率73%)	10億円

SDGsに配慮した省エネ設備の導入

ホース製造の新工法・新規加硫工法の導入
太陽光発電など再生可能エネルギーの拡大利用

電力使用料の 大幅な削減 (姫路工場)	2024年		2025年 計画
	計画	実績	
	0.63億円	0.88億円	1億円

人的資本経営の推移と多様な人材活用

優れたスキルを有した在外国人材の採用強化・異文化コミュニケーションの催促
グループ人材育成方針に基づく更なる人材育成の強化

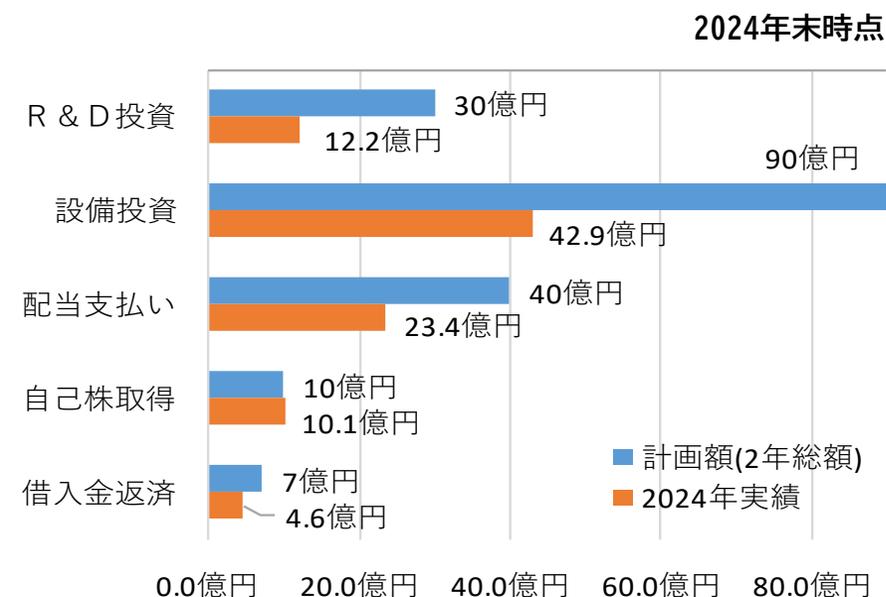
親会社主要部門 における 外国人比率	2024年		2025年 計画
	計画	実績	
	15%	14%	15%

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

<キャッシュ・アロケーション> 財務戦略・資本政策の強化

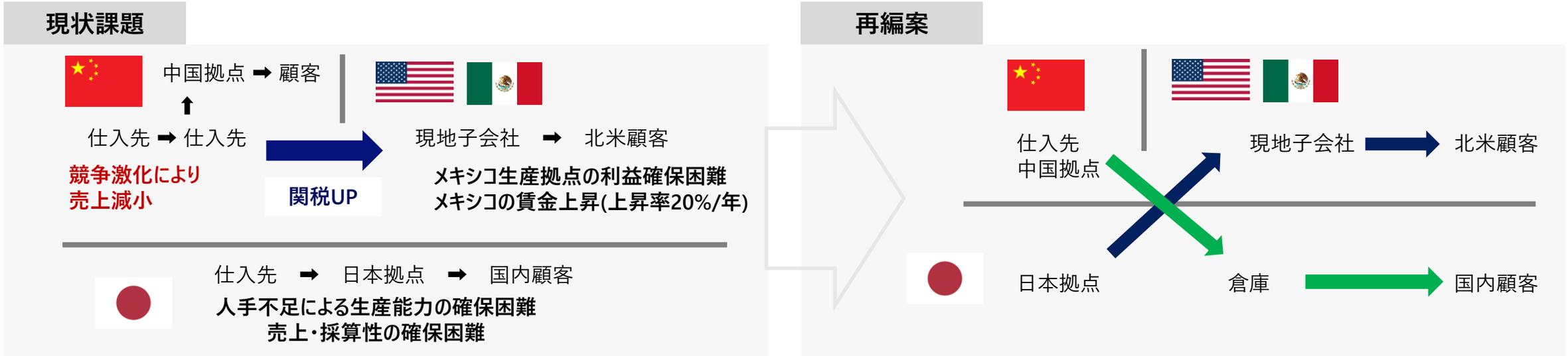


内容	計画額(2年総額)	2024年実績	進捗
R & D 投資	30億円	12.2億円	40.7%
設備投資	90億円	42.9億円	47.7%
配当支払い	40億円	23.4億円	58.5%
自己株取得	10億円	10.1億円	101.0%
借入金返済	7億円	4.6億円	65.3%



5. トピックス

JCXプロジェクト



計画（スケジュール）

- 1. 北米向け製品の生産移管 北米(NICHIRIN FLEX) → 日本(ニチリン) に移管**

STEP1 <AC高圧ホース> 客先ETA 2024年2月 約6.6万本/月 … 2024年12月より出荷開始済み

STEP2 <AC低圧ホース> 客先ETA 2025年5月 約2.4万本/月 … 計画通り推進中

STEP3 <EV用ACホース> 客先ETA 2025年10月 約10.5万本/月 … 計画通り推進中
- 2. 国内向け製品の生産移管 日本(ニチリン) → 中国(蘇州日輪汽車部件配管公司) に移管**

STEP1 <AC高圧ホース> 客先ETA 2024年11月 約5.7万本/月 … 2024年11月下旬より中国品の納入開始

STEP2 <AC低圧ホース> 客先ETA 2025年2月 約3.5万本/月 … 計画通り推進中

5. トピックス NICHIRIN WORKSHOP

2024年7月に完成。人と協働するロボットの研究開発拠点として、
ロボット組立作業場・トレーニングルーム、安全道場のほか、危機管理センター機能を備える

NICHIRIN WORKSHOP 建屋外観



協業ロボットの研究開発を通じた地域連携の取り組み

市内工業高校との産学協同研究を開始し、製造現場での画像処理および
ロボットピッキングの研究のため、当WORKSHOPを活用
製造現場における協働ロボットの活用拡大を図るだけでなく、
近隣中小企業への紹介・普及、将来的な優秀人材の採用に向け取り組みを推進中

安全衛生教育

安全意識の向上を目的に、疑似的に不安全な状況をつくり出して
その怖さを体験してもらう装置を導入。（専用ルーム名称：安全道場）
作業者が危険予知能力を身につけ労働災害の未然防止を図る

防災拠点

BCP対策として非常用発電を備え、非常食や防災用品を保管
災害時には避難場所や緊急対策本部として活用

環境に配慮した建築物

「建築物省エネルギー性能表示制度; BELS（ベルス）」で
最高位の5つ星評価を取得。またZEBを見据えた先進構築物として
高断熱化・高効率な省エネルギー設備を備えた建築物である「ZEB Ready」を取得

挟まれ巻き込まれ体感装置



5. トピックス 環境への取り組み

2050年にグループ全体でカーボンニュートラルを実現することを宣言し、それを実現するためのステップとして、環境問題への積極的な取り組みを推進中

目標 (2022年度比)

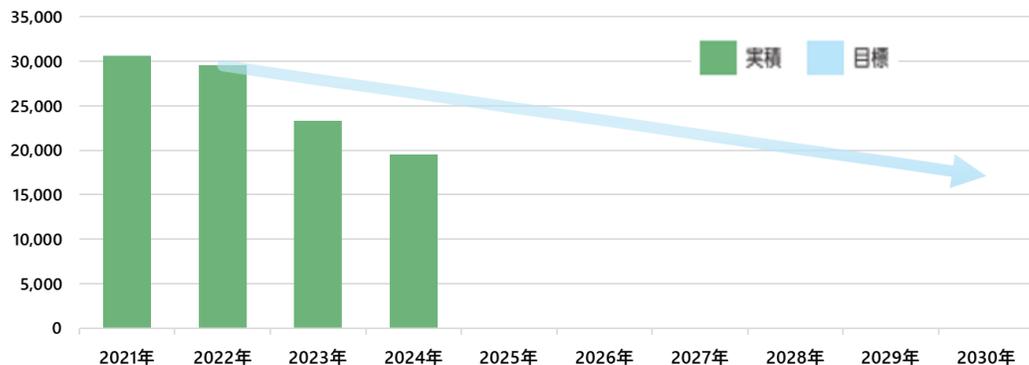
- ◆ GHG排出量に関する目標 (短期：2028年まで)
 - …スコープ1・2のGHG排出量42%削減
 - スコープ3(カテゴリー1)関連仕入先と目標設定
- ◆ GHG排出量に関する目標 (長期：2050年まで)
 - …スコープ1~3のGHG排出量90%削減
- ◆ ネットゼロに関する目標
 - …2050年までにバリューチェーン全体でGHG排出量ゼロ



※上記3目標については、Net-zero基準 (世界の平均気温の上昇を産業革命前に対して1.5°C以下に抑えるための基準) に合致した目標としてSBTiの認証を取得済み

- ◆ 再生可能エネルギー由来電力の調達に関する目標
 - …2050年までに調達率100% (中間目標：2027年に50%、2030年60%、2040年90%)

スコープ1・2 GHG排出量の実績と目標 (単位：tCO2eq)



「ニチリングroup サステナビリティレポート2024」の発行・公開

ニチリングroupとして初めてとなる「サステナビリティレポート」を2024年12月に公開。補足資料としてESGデータブック2024やGRIスタンダード内容検索の発行も実施。

今後もサステナビリティに関する取り組みを強化し、毎年のレポートを通じて当社グループの進捗状況の報告を行う予定。





In Step with the Future
NICHIRIN

～おことわり～

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の当社独自の判断に基づくものであり、
経済状況や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。
従いまして、記載された将来の予想数値・試作の実現を確約したり、保証するものではありません